

S.W.A.T.

シーズン5



「S.W.A.T. シーズン5」

【別紙】番組詳細資料



INTRODUCTION



イントロダクション

70年代に一世を風靡した名作ドラマ「特別狙撃隊 S.W.A.T.」を現代によみがえらせた「S.W.A.T.」は、2018年に全米 CBS 局で放送がスタートして以来、全世界で人気を博す大型ポリス・アクションドラマ。麻薬取引、テロ、ギャング抗争など犯人が強力な武器を持つ重大事件にロサンゼルス市警所属の特殊武装戦術部隊、S.W.A.T. チームが立ち向かう。

そのチームを率いるリーダー、ホンドーは部下たちからの信頼も厚いタフガイ。黒人として人種差別とも戦ってきた彼はシーズン 4 では白人至上主義のテロ集団を追いかけ、警察組織内の黒人への差別を正そうと奮闘するが、辞職を迫られロサンゼルス市警に対し不信感が募ってしまう。シーズン 5 は、そんな彼が悩みながらも仲間たちに支えられて一から再出発する姿が描かれていく。

ホンドーを演じるのは「クリミナル・マインド」のデレク・モーガン役に続きこれが大きな当たり役となっているシェマー・ムーア。彼が、映画「ジャングル ギンズバーグ 19 日間の軌跡」のアレックス・ラッセル、「ベイツ・モーテル」のケニー・ジョンソン、「デスパレートな妻たち」のジェイ・ハリントンら個性豊かなキャラクターを演じる共演陣と息の合った演技で、カーチェイスやヘリコプターからのダイブといった豪快なアクションに挑み、正義感と友情に満ちた感動の人間ドラマを繰り広げていくのが見どころ。記念すべきシリーズ通算 100 話目を達成し、すでにシーズン 6 も決定している大ヒット・シリーズは見逃せない！

STORY

ストーリー



シェマー・ムーア主演、大人気アクションドラマのシーズン5を独占日本初放送！
リーダーから降格となったホンドーが正義を模索し新たな戦いへ——
シリーズ通算100話目に到達、アクションも人間ドラマも盛り上がる最新シーズン！

ロサンゼルス市警が人種差別意識のある同僚に対して毅然とした措置を取らなかったことに失望し、マスコミを通じて事実を訴えた結果、自ら辞職するよう迫られたホンドー。自分はいったいどうするべきなのかと迷いを抱えた彼はロサンゼルスから姿を消し、チームのメンバーの誰とも連絡を取らないままメキシコの田舎のとある農場で過ごしていた。

そんなある日、ホンドーはある出来事がきっかけで近所のレイエス農場の娘デルフィナと知り合う。彼女は農場主の父ミゲルが急死してからヨーロッパから来た悪名高い投資家アーサー・ノヴァクに農場を売るよう脅されていた。そして、ホンドーはレイエス農場を守りたいと救いを求めてきたデルフィナと母イサベルの頼みを一度は断るものの、地元警察も頼りにならず孤立無援で奮闘する母娘を見るに見かねて一肌脱ぐことを決心、ミゲルの死の真相を洗い直しノヴァクとの対決に臨む。

その後、解散を告知されたチームのメンバーたちの前に思いがけずホンドーが姿を現す。メキシコでの戦いを終えた彼はS.W.A.T. 隊員としての初心を取り戻し、再び正義を貫き、変化を起こすためにロサンゼルス市警に戻ってきたのだった——。

HIGHLIGHTS

見どころ



主演・プロデュースを務めるシェマー・ムーアの魅力

ホンドー役のシェマー・ムーアはフレンドリーかつセクシーな個性が世界中のファンに愛されている人気スター。彼は米ネットワーク局のドラマで黒人俳優として主演を張りプロデュースにも参加していることにプライドを持ち、シリーズ開始当初には「僕の存在が多様性のある社会の扉を開くきっかけになればいい」と語っていた。そして、黒人に対する暴力や人種差別の撤廃を訴える抗議運動である BLM 運動が広がった後のアメリカ社会を反映したシーズン 4 では、同僚から差別される現実に直面しつつ正義を貫こうとするホンドーを熱演。このことについても彼は、「楽しくスリル満点だけでなく時事問題も扱う地に足がついたシリーズであり続けることは、主演としてもプロデューサーとしても自分にとって大切なことなんだ」とコメントしている。硬軟併せ持つ魅力でリアルなヒーロー像を体現する彼に注目だ。

ホンドーが大活躍する痛快なオープニングエピソード

シーズン 5・第 1 話は、シーズン 2・第 12 話に続いて 2 回目となるメキシコが舞台のエピソード。ホンドーは友人の農場に滞在し雄大な自然の中で独り静かに警察官を続けるかどうか今後の身の振り方を考えていたが、地元を牛耳り善良な市民を虐げる悪者を見過ごすことができず、正義の味方として戦いに身を投じることになる。カウボーイハットをかぶり馬に乗って登場するホンドーは、いつもと違ったかっこよさ。素手で悪党どもを投げ飛ばしたかと思えば、良心の残る地元警官を味方につけて銃を手に敵が用意した傭兵たちを 1 人ずつ倒していく。その姿はまさに弱きを助け強きを挫く“西部劇ヒーロー”！ホンドーのこれまでとは一味違う痛快な活躍は必見だ。

HIGHLIGHTS

見どころ



新たなリーダーの登場が緊張感を呼ぶ波乱の展開

ホンドーが辞職を思い止まったことでチームは解散を免れ、新人教育を行っていたディーコン、ドイツでの研修を終えて帰国したルカとクリス、母親に肝臓移植をして療養中だったストリート、ポニーと新婚旅行を満喫したタンが戻ってきてチームが再始動する。だが、ホンドーは降格となり、彼に代わって昇格することをディーコンが固辞したことで、新たなリーダーには市長の警護を辞めて S.W.A.T. に舞い戻った元同僚のサンチェスが就任する。このサンチェスという人物はできる男ではあるが出世欲が強く自己中心的。特に犬猿の仲であるルカはサンチェスがリーダーになったのには何か裏があるのではないかと疑うが…。手強い新キャラクターの登場でチームに緊張感がもたらされるスリリングな展開から目が離せない。

カメラの内でも外でも固い絆で結ばれたメンバーたち

現代のロサンゼルス社会を反映して黒人、アジア系、ラテン系などダイバーシティーに富むチームのメンバーたちは、これまで紆余曲折を経て互いに信頼関係を築き上げてきた。特に通算 100 話目のエピソードでは、メンバーたちの固い絆を証明する胸を打つストーリーが描かれる。もちろん、これを演じるキャストたちも今やファミリーとして抜群のチームワークを発揮しており、シーズン 5 ではメンバーのうち 2 人が監督に初挑戦、ストリート役のアレックス・ラッセルは第 8 話で、クリス役のリナ・エスコは第 15 話でメガホンをとった。この 2 人については、互いに惹かれ合いながらもチームメイトであるがゆえに交際には踏み切れないストリートとクリスの悩み多きラブストーリーを演じているのも要チェックだ。

CAST

キャスト



ダニエル・“ホンドー”・ハレルソン

／ Shemar Moore as Daniel “Hondo” Harrelson（声：咲野俊介）

前チームリーダー、バックの後任者に抜擢され S.W.A.T. チームの指揮を執ることに。サウスロサンゼルス の 貧しい地域で生まれ育ち、今でも住民たちとの繋がりを大切に信頼されている。地元民は警官へ不審感を抱いているため、自身が“リーダー”という立場となることに葛藤があるが、いつも冷静沈着でその素質は高い。少年院から出たダリルの里親として母シャリースと共にダリルを引き受けることを決意。さらに、ガンを患っている父ダニエルも同じ屋根の下にやってくる。ダニエルは昔、他の女性と恋に落ちてシャリースを捨てたのだった。そんな両親の暗い過去を見てきているホンドーは、恋人ニシェルとの関係にも一苦勞。ロス市警の人種差別問題を暴露したことの余波を受けてチームリーダーから下ろされてしまったホンドーは、失意の中、メキシコの農村地帯にやってくる。



シーズン5 第1話「さすらい」



シーズン5 第7話「償じる者」



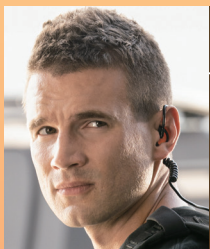
シーズン5 第7話「償じる者」

【シェマー・ムーア】

1970年4月20日、米カリフォルニア州生まれ。数学教師の母親と一緒にデンマークとバーレーンで育つ。7歳でアメリカに帰国。サンタクララ大学でコミュニケーション学と演劇芸術学を専攻する。在学中はモデルのバイトをして生活費を稼いだ。1995年にシットコム「Living Single(原題)」で俳優デビュー。2005年から11シーズンにわたって出演した「クリミナル・マインド」のデレク・モーガン役で人気テレビ・スターの座を不動のものにしたが惜しまれつつ降板、その後本作への出演が決まる。2018年からは『デス・オブ・スーパーマン』、『レイン・オブ・ザ・スーパーメン』、『The Death and Return of Superman (原題)』、『ジャスティス・リーグ:ダーク アポカリプス・ウォー』でサイボーグの声を担当している他、『ソニック・ザ・ムービー/ソニック VS ナックルズ』ではランドールの声を担当。

CAST

キャスト



ジム・ストリート / Alex Russell as Jim Street (声: 相葉裕樹)

ロングビーチ市警察から転属してきた。幼少よりストリートを知り才能を見込んだバックが、ヒックスに頼んでチームに引き入れた。向こう見ずで1人突っ走ってしまうところをホンドーに指摘されることが多々あるが、警官としての素質は非常に高い。暴力の絶えない父親を殺害した母カレンは服役中で、自身は里親のもとを転々として育った。クリスとはソウルメイトで、男女として付かず離れずの関係を保ってきたが、母親のために肝臓提供手術をしようとして、関係が少し進展する。

【アレックス・ラッセル】

1987年12月11日、オーストラリア・ブリスベン生まれ。父が外科医で母が看護師の家庭に育つ。デビュー作は2010年製作のオーストラリア映画『Wasted on the Young(原題)』。『クロニクル』や『キャリアー』などの映画出演歴はあるが、TVシリーズにレギュラー出演するのは本作が初めて。

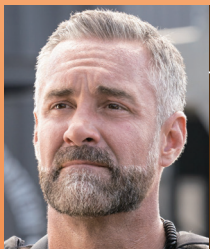


クリスティーナ・“クリス”・アロンゾ / Lina Esco as Christina “Chris” Alonso (声: 種市桃子)

S.W.A.T. チームの紅一点。小柄に見えるが、実地訓練の際には高得点をマークするなど、能力では決して引けを取らない。警察犬訓練士の資格があり、チームの犬のトレーナー。バイセクシャルで、過去にタイとキラというパートナーと3人で同棲していた。シーズン3で、警官になったのは若いころにレイブされたからだったことが明らかに。ストリートとはソウルメイトで、男女として付かず離れずの関係を保ってきたが、彼が母親のために肝臓提供手術をしようとして、自分の気持ちに素直になることにする。

【リナ・エスコ】

1985年5月14日、米フロリダ州生まれ。2005年、映画『エクスタシー』でデビュー。TV「CSI: 科学捜査班」、「CSI: ニューヨーク」などに出演。



デヴィッド・“ディーコン”・ケイ / Jay Harrington as David “Deacon” Kay (声: 加藤和樹)

本来の警察内の序列では、チームリーダーとなるはずだったが、人種問題を考慮したヒックスの決定に従い、ホンドーに指揮権を譲る。経験豊富な頼れる存在で、チームのことを第一に考えている。4人の子どもの父親で家族想い。シーズン3では、前リーダーのバックの関わる警備会社の仕事を副業で請け負い、初めてリーダーとしての体験をするも、やはり自分の居場所はS.W.A.T.だと再確認。頼れる存在ではあるものの、実はその重圧に押しつぶされそうになっていたことも分かる。

【ジェイ・ハリントン】

1971年11月15日、米ササチュエッツ州生まれ。シラキュース大学で演劇を学ぶ。1998年「Pacific Blue(原題)」のゲスト出演で俳優デビュー。主な出演作には「WITHOUT A TRACE / FBI 失踪者を追え!」、「デスバレットな妻たち」などがある。スポーツ好きで、セレブリティ・バスケットボールリーグや地元のアマチュア・ホッケー・チームで活躍している。



ヴィクター・タン / David Lim as Victor Tan (声: 手塚ヒロミチ)

ロサンゼルス市警察ハリウッド地区の麻薬課に勤務していたが、S.W.A.T. チームに転属された。麻薬課勤務時代に得た秘密情報提供者たちとのコネを捜査に役立たせる。私生活ではポニーと結婚したばかり。プロポーズの当日、タンが指輪を用意してポニーとレストランで食事していると、そこに仮面をつけた男たちが突然現れて事件に発展するが、ポニーはそんな危険をものともせず、無事に誓ってプロポーズが成功してゴールインした。

【デヴィッド・リム】

1983年9月23日、米カリフォルニア州生まれ。カリフォルニア大学サンディエゴ校で電気工学を専攻するが、卒業後はモデルと俳優の仕事始める。2011年、昼メロ「The Young and the Restless(原題)」で俳優デビュー。その後、TVシリーズのゲスト出演を重ね、最近ではTV「クワンティコ(シーズン2)」にセバスチャン・チェン役で出演。



ドミニク・ルカ / Kenny Johnson as Dominique Luca (声: 西村太佑)

祖父から3世代にわたり警官。祖父ジャックは初期のS.W.A.T.のリーダーとして尊敬される人物だったが、黒人であるホンドーのことを認めていなかった。メンバー内で取り組む腕相撲では3年連続チャンピオン。シーズン3では腰に大怪我を負いリハビリに専念するも、なかなかS.W.A.T.のフィジカルテストに合格できず辛い日々を過ごしていた。最後の最後でついに合格し、前シーズンではドイツへ渡って遠くからチームを支えていたが、ロスへ戻ってきた。

【ケニー・ジョンソン】

1963年7月13日、米コネチカット州生まれ。大学ではフットボールとバスケットボールをプレーした。コマーシャル出演を経て、1990年、映画『情熱のランバダ』で俳優デビューを果たす。TVシリーズの主な出演作には「ザ・シールド〜ルーラー無用の警察パジャマ〜」、「女捜査官グレイス〜天使の保護観察中」、「ベイツ・モーター」などがある。元アマレスリングチャンピオン。



ロバート・ヒックス / Patrick St. Esprit as Robert Hicks (声: 上田耀司)

本部に属す全てのS.W.A.T.チームを統括するロサンゼルス市警特殊作戦局の上級官。犯人追跡中に黒人少年を誤射してしまった前任のバックを解雇し、その後任としてホンドーをリーダーに任命した。妻バーバラを亡くしている。弁護士の娘モーリーが、チームメンバーのストリートと付き合っていたことがあった。

【パトリック・セント・エスプリト】

1954年5月18日、米カリフォルニア州生まれ。「NCIS」シリーズや「レイ・ドノヴァン ザ・フィクサー」「キャッスル〜ミステリー作家は事件がお好き」など多くの人気ドラマにゲスト出演しているほか、「ワイルド・スピード ICE BREAK」「インデペンデンス・デイ: リサージェンス」「グリーン・ゾーン」「ハンガー・ゲーム2」などの映画でも好演。

SUMMARY

シーズン1~4までのストーリー



サウス・ロサンゼルスで武装した容疑者を追っていた S.W.A.T. 隊員のリーダー、バックが事件とは無関係な黒人の高校生を誤射。これが住民の反発を引き起こしたため S.W.A.T. チームを統括するヒックスによって地元出身のホンドーがバックの後任に選ばれる。キャリアから言えばベテラン隊員のディーコンがリーダーとなるはずで、この異例の抜擢はチームの雰囲気ギクシャクさせるが、ホンドーはディーコンも一目置くリーダーシップを発揮し、代々警察官の家系であるルカ、紅一点で警察犬担当官のクリス、元麻薬課勤務で情報通のタン、向こう見ずな新米隊員ストリートとも信頼関係を築いていく。

そして、シーズン2でホンドーはトラブルばかりで S.W.A.T. 失格かと思われたストリートを一人前の隊員に育て上げ、自他共に認めるリーダーへと成長。シーズン3ではディーコン、タン、ヒックスとともに東京に飛んで日本の警察に協力する任務でも活躍する。また、シーズン4では病を抱えた父親ダニエルや後見人となっている友人の息子ダリルとの間に生じた問題を乗り越えていくが、ロサンゼルス市警内の人種差別問題で葛藤を抱えることに。その結果、ホンドーは上層部から辞職を促されチームは解散の危機に陥る。



シーズン4 第1話「3世代の17歳」



シーズン4 第6話「偽りの神の声」



シーズン4 第14話「報い」

INFORMATION

放送情報



「S.W.A.T. シーズン 5」

9/9(金) 22:00 独占日本初放送スタート！

【二カ国語版】毎週金曜 22:00 ほか

【字幕版】毎週金曜 24:00 ほか



「S.W.A.T. シーズン4」アンコール放送

9/8(木) 7:00 スタート！

【二カ国語版】平日 7:00(連日2本立て)

【字幕版】平日 19:00(連日2本立て)

製作総指揮：ショーン・ライアン、ニール・H・モリッツ、ポール・バーナード、ピリー・ギアハート、
バヴァン・シェティ

キャスト：シェマー・ムーア、アレックス・ラッセル、ジェイ・ハリントン、ケニー・ジョンソン、
リナ・エスコ、デヴィッド・リム、パトリック・セント・エスプリト